

ハーグ条約 日本加盟へ



イベントで「チルドレンファースト（子ども第一）」と書かれた風船を配る三浦泰司さん＝5月、愛知県長久手町

国際結婚が破局した時の子どもの扱いを定めた「バーグ条約」＝＝加盟について、政府は5月に閣議了解し、動き出した。国内での離婚後の親子のあり方が変わらるべきかや、家庭内暴力（DV）や虐待の被害者をどうするのかなど、東海地方の関係者も注目している。

国内離婚 どう変わる

「共同親権」に改正を

と子どもを保護、監督する
「親権」が一方の親に定められ
る。ハーグ条約の加盟国は、離婚後も両親が親権を持つ「共同親権」が一般的だ。

三浦さんは「中部・共同親権法制運動の会」を立ち上げ、離婚後も父母が平等に子育てにかかわるよう、ハーフ子育てを実現する。一方で、国連子育て条約加盟と民法の改正を

一育てくれた母への恩と、父を奪った母への憎しみが重なる。涙が止まらなくなる。子どもにとっては、「おののく」の親とも別れたくないはずだ。

DV絡み法律整備を 日弁連

法律整備を Vが絡む場合が相当数ある。

共同親権にも否定的で、「問題は親権ではなく、同居時にどれだけ家族と良い関係を築いたかではないか」と話す。

2008年6月、妻が2人を連れて突然別居。「不貞」という身に覚えのない理由などが挙げられたという。家庭裁判所は妻に親権を認めたため、高裁で争つている。「話し合いもなく連れ去る行為は、海外では『誘拐』だし、子どもの虐待にもあたる。ハーフ条約の加盟をきっかけに、子どもがどちらの親とも自由に会えるように制度を変えてほしい」と期待する。

一方、兵庫県弁護士会は、「D.V.に加盟せず、即時に子どもを返すものになつていい」とするよりの主張。本弁護士連合会も、D.V.が認められる場合は返還しないよう、国内法の整備を求める。

暴力や暴言だけでなく、行動や金銭の自由を与えないことでも含まれ、「父が自覺していない」とも少ないと話す。憲法上、条約の効力は国内法を上回るとされるが、「ハーフ条約があるのは、法体系が違う国同士に一定のルールが必要だから。国内で離婚、別居した場合は違う」と、加盟後も国内での子連れ別居がすぐ

中部・共同親権法制定運動の会は、DVについて「例えれば実の父との関係が絶たれなければ、母子家庭での内縁の夫などによるDVも防げる」という。賛成派も慎重派も、「子どもの最善の利益」を重視するが、ハーフ条約が本当に子どものためになるのかについては、考え方には大きな異議がある。(山吉健太郎)

ハーブ条約

して対立した場合、原則として元の居住国へ戻すことを定める。現在加盟する84カ国は欧米、中南米が多く、アジアではシンガポール、タイなどにとどまる。

愛知県瀬戸市立瀬戸介護施設職員渡辺陽将さん(37)は3歳の時に母に連れられ、父と別れた。

愛知県名古屋市の中院義典議員は、渡辺陽将さん（37）は3歳の時に母に連れられ、父と別れた。渡辺さんは自身も09年、妻が幼い娘を連れて実家に帰り、会えなくなった。「子を奪わねた父の気持ちが初めてわかつた」。実父の居所を探し当てたが、すでに病死していた。「育ててくれた母への恩と、父を奪った母への憎しみが重藤し、涙が止まらなくなる。子どもにとっては、どちらの親とも別れたくないはずだ」と語る。

共同親権にはならないと考える。共同親権にも否定的で、「問題は親権ではなく、同居時にどれだけ家族と良い関係を築いたかではないか」と話す。中部・共同親権法制化運動連合の会は、DVについて「例えば実の父との関係が絶たれれば、母子家庭での内縁の夫などによるDVも防げる」という。賛成派も慎重派も、「子どもの最善の利益」を重視するが、ハーフ条約が本当に子どものためになるのかについては、考え方には大きな異